尾州の匠　ものづくりリレー 2020

名古屋芸術大学　畭 絵美里

実習先：葛利毛織工業株式会社
　　有限会社カナーレ

●それぞれの実習先で何を学んだか

【葛利毛織工業株式会社】

…布を分解してデータを取る作業や、番手の計算方法。機械を使って糸をコーンに巻く作業や、織機にたて糸を結ぶ作業。

自分の考えた組織図の通りにたて糸のカードを組ませてもらったり、綜絖に糸を通す作業など、織機に触れる機会が多く、主に生地の織り上げまでの工程について学びました。

【有限会社カナーレ】

…限られた糸本数の中でどのように糸を選び、いかに効率的に理想的な布を作るのかということを学びました。生地のデザインの一連の工程に加えて、ものづくりにおいては、自分のつくりたいものを相手に上手く伝えることがいかに大切かということ、相手と話をしコミュニュケーションをすることの大切さを学びました。

●生地制作

メンズでもレディースでも使えるお洒落なスーツ生地を制作したいと考えました。

葛利毛織さんにて、布のサンプルを見ているときに、ぱっと見はシンプルなデザインだけれど、よく見ると何色か入っているお洒落な生地を見つけ、私もこんな布を作りたい！と思い、その布をサンプルに配色を考えました。

布を分解し、何色使われているか、この色が入っているからぱっと見でこんな色に見えるようになっているんだ、と勉強しながら、この色を違う色に置き換えたらどんな雰囲気になるかなど、このものづくりリレーで得た知識を活かし糸を選びました。

元からお手本となる生地があって、糸見本があっても、どんな雰囲気の布に織り上がるかは織り上がるまでは実際にわからない、ということをここで改めて実感し、ものづくりには知識と経験が必要だということ、またものづくりの難しさがわかりました。

●ものづくりリレーを通して身につけたこと、この経験をどう活かしたいか

葛利毛織では織機に実際に触れて、織機を動かすことの難しさや大変さ、一枚の生地が出来るまでの工程の多さを実感するなど、布を織る現場の雰囲気を実際に体験することができました。カナーレでは、どのような生地を作ってほしいか相手に伝えたはずなのに、出来上がってきた生地が自分の思っていたものと違うときは、相手と話ができていないからである、という話が 1 番印象に残りました。

実際に生地の制作をする過程を体験し、コミュニケーションはものづくりをする上でとても大切であるということ改めて実感することができました。

尾州の現場で働く多くの人たちと関わり、話す機会を頂くことができてとても貴重な経験になったと思います。

今回のものづくりリレーでの体験や知識を、今後尾州でものづくりをしていく中で活かしていけるように頑張りたいと思います。